

一斉学習 教師説明型

京都府立乙訓高等学校
山本裕幸

実践タイトル ICTを活用して坂本龍馬の生きた時代を考える

主に活用したICT機器・教材・コンテンツ等とそのねらい

PC・プロジェクター

・激動の時代の流れをプレゼンテーションソフトウェアを活用して視覚的に捉えさせる。

自作PC教材・動画

・自作PC教材と動画を組み合わせて見せることで、生徒の学習への興味・関心を高める。

参考にしてほしいポイント

・プレゼンテーションソフトウェアで静止画(自作PC教材)を提示することで、時代の流れ、出来事等を視覚的に把握させることができる。また、DVDに録画しておいた動画を必要な箇所まで併せて見せることで、興味関心が高まり、より理解が深まる。

本時の展開(主な学習活動)

学習の流れ(分)	主な学習活動	ICT機器・教材、コンテンツ等
導入	0 〈本時は、4時間中の3時限目〉 自作PC教材で ・長州藩が討幕藩になっていく課程 10 ・薩摩藩が、大攘夷を考えていく過程を提示し、坂本龍馬の登場に至るまでの歴史の流れを捉えさせる。	・プレゼンテーションソフトウェア ・自作PC教材
展開	10 ・坂本龍馬はなぜ薩長同盟を進めたか。 ・大政奉還を提言したねらいは何かを考える。 40 ・龍馬が暗殺された、その背景にある政治的な対立を考え、この時代の動きを理解する。	・ビデオ ・プレゼンテーションソフトウェア(写真1)
まとめ	40 ・王政復古の大号令から戊辰戦争 ・薩長のクーデター成功により討幕に至る経緯について考える。 50 終わりに龍馬の妻・お龍さんのその後のエピソードをビデオで見せることで、生徒の歴史への興味を高める。	・プレゼンテーションソフトウェア(写真2) ・ビデオ(写真3)



写真1: プレゼンテーションソフトウェアによる説明



写真2: プレゼンテーションソフトウェアによる説明



写真3: ビデオの上映

ICT活用への児童生徒の反応等

・授業プリントの流れをプレゼンテーションソフトウェアを活用して提示することで、生徒の課題に対する興味・関心が高まり、主体的な思考や判断をもって、この時代の動きを理解することができた。また、DVDに録画しておいた動画を併せて見せることで、激動の時代を生きた坂本龍馬を身近に感じることができた。

活用効果

評価の観点

・思考・判断・表現

具体的変容

・授業後に、初めて知った、興味が持てたなどの声を聞くことができた。

実践の手応え

・プリント・板書授業では、生徒が下を向いていることが多いのに対して、この実践ではほとんどの生徒が前を向いて意欲的に授業に参加することができた。